

思い出をたどって

中野孝門

もう、4、5年も前のことです。牧野さんのお世話で伊丹空港を訪れました。心に浮ぶのは、一面の緑の芝草、斜に交わる2本の滑走路、数機の初練と中練、時々飛来する実用機くらいのものでした。しかし、何処を見てもかつての面影の片鱗すらなく、アルト・ハイデルベルクの皇子の思いにも似た感を深くしたものです。

昭和55年のことと思います。新聞を見ていた妻が、日本学生航空の50年の祝典があるから是非参加するようにと推めてくれました。小倉空港での式後、モーターグライダーに同乗して驚いたのは雑音と供に入ってくる指示です。よく聞き取れるものだと感心した次第です。離陸し、ややあって、30数年ぶりで初練のフライトの気分を味わいました。

実はこの時、吉田教官にお会いしました。あまりにも長い年月の経過に、少々とまどいもありましたが、誰彼の話となると、あの青春の学連の日々が急に再現されて、時を忘れて話したものです。吉田さんについて、一番印象に残っているのは、昭和15年7月、霧ヶ峰での合宿訓練の時のことです。生れて初めて操縦桿を握るプライマリーを背にして、吉田教官は、人間が空を飛ぶまでの基本的な考え方について、人間が如何に苦心して歩くことが出来るようになるか、をベースに訓示をされました。訓練生は、皆一様にうなづいていました。この時、私は飛行という1つの人生の入口に立ったとの感を深くしたものです。

真夏の太陽の下、微風に靡く草原の中で、懸命にロープを引きました。そして10数回に一度飛ぶ時の心の弾みは、何ものにも代え難いものがありました。あの日は少々風があり、高度3メートルの直線滑空で、ハリキリ学生の某さんが、風にあ

おられて安定を失いました。すぐ右上に見える彼の引きつった顔が今も目に浮びます。この合宿で、私は残念ながら途中下山しました。小雨の日、ミーティング会場に行く路で滑って右足を骨折したためです。上諏訪に1泊して京都の下宿に帰ったように記憶しております。

昭和15年9月からは、待望の飛行機の訓練に入りました。4月から機体の手入れと、土谷整備士の座学ばかりでしたので、この機体で飛び立つ夢は膨らみに膨らんでいました。出発の時が来ました。ものすごい力で私の体は座席の背に押しつけられて加速の強さを身をもって知ることが出来たのはこの時です。

助教は橋本先輩、次が大西先輩でした。同期は牧野、友広、清水、そして今は亡き門田の諸兄でした。昭和18年の初めに操縦士免許と技量証明書を手にしました。

先輩を囲んで撮った写真・編隊飛行中に互いに撮り合った写真・格納庫の前で全員で撮った記念写真等々沢山ありました。これ等が手許にあれば当時の気持がもっとリアルに思い出せるかも知れませんが、復員してみるとこのアルバムが見当りません。海軍の職業軍人であった伯父の写真は全部剥ぎ取ってありました。当時、今では考えられないような、占領軍の家宅捜索が行われていたそうです。誰それは重労働何か月で沖縄へ連行、という情報が伝わっていました。私方の刀剣類は全て警察に没収されていました。航空気象学の本まで焼却するよう指示されたとのことでした。その頃のことでしょうか、元パイロットが悲憤と悲哀をこめて、「わが空は、わが空ならず、秋の空」という句を詠んでいた、と何かで読み、胸の痛みを感じました。

追 懐 “芙蓉の如き君なりき”

特攻隊員 岸田 禎 介

昭和54年、停年の翌年のことです。60の手習いで車の運転に挑戦しましたが運転するうちに面白いことを発見しました。それはいつも水平線が見えていることです。「習い性となる」ということでしょうか。昔々の、水平飛行時の指導が、しっかりと感覚に刻み込まれているということです。

今は、唯一人の人生、中国山地の西端で、孤独と自由を謳歌しています。時々、100キロのスピードで山陽道をつつ走っています。

過疎の里 梅の香うぐいす 斜陽風呂

(昭和19年卒)



予科の頃の岸田禎介氏
(撮影 岩室 清君)

先祖代々、洗うが如き赤貧に恵まれ、飛行機一筋に美しく青き大空に、溶け合う青春でありました。学生航空隊首席合格を、我が事のように喜び、急ぎ知らせに來られた予科幹事佐々木哲先輩の姿に感動を覚え、単独飛行一番乗りは、総て頂戴しました。盾津での島博教官。牧野・河合両助教。伊丹での山村教官との大空の師弟関係を昨日の如く、回想致しております。

秋至り霞ヶ浦航空隊に入隊。天虎学生航空隊40名に遅れる事旬日余。初めは処女の如く、馴れて来るって一と、脱兎の如く、吊床下ろし(ハンモック吊り)の早業は16秒！帝国海軍新記録タイと賞められ候。数日にして飛行訓練開始。操縦もトップにて候。一重に赤貧と一筋縄の為せる業かと存じ候。毎夕食後の和菓子は、俗世にての入手は以つての外の珍品にして、満悦この上なし。

12月寒気湿気瘰疽の霞空より、四国は伊予西条空に転勤(10航艦)。瀬戸暖国の錯覚あわれ、夜の寒気には冬季飛行服を着込んでも眠れぬ程に、ナメシもナメシも凍^{イデ}ついたゾナメシ。1月4日父病死。2月硫黄島の兄より救援を望む絶筆落手。天山艦攻火星1850馬力の腹にこたえる爆音今も尚耳底にあり。西条空では、何故か気が合うて忘れられぬ隣の分隊の高橋上飛曹が毎晩私のところに来ては、ブーゲンビル島沖航空戦で愛機ゼロ戦のお話は機会あれば又。5月、5航艦東京航空隊配属即特攻隊編成へ。西条駅臨時列車見送りの飛行練習生達全分隊及び市民大勢のプラットフォームにおける風景を今思えば胸せまる。

飛行練習生(予科練14期生)達300名の眼には涙が溢れていた。理由は私は冷静に考えていた。それは海軍ではみられぬ私達の非暴力に対する感涙であつたろう。海軍省は前代未聞の非暴力に少な

からぬ驚異を覚えた様だ。予備学生13期の海軍中尉達より勝れた私の操縦技術を無視する事もならず関東防衛に駆り立てた。ベテランパイロット^{カミ}上川飛曹長の眼は、暖かく私に向けられていた。それを物語る様に。その頃から私は、昼間星を度々見ている。距離18000メートルの機種^{カミ}の判定は楽に出来て、練習生を驚かせた。

いよいよ6月5日豊橋航空隊付下命、10名。美幌空(96陸攻・97艦攻・中練・ゼロ戦)に10名。残り24名は待機組と3分割された。豊橋空は台湾航空戦で主力を失った陸爆^{スガ}・銀河、の基地。双発、中島譽1825馬力、最高速度546km/h。ゼロ戦21型・22型・32型より優速。燃料タンクはスポンジで覆われており、一式ライターと呼ばれて簡単に火をふいた陸攻(山本五十六連合艦隊司令長官がブインの手前で撃墜されたのはこの一式陸攻)の後釜で、高性能故に彗星艦爆と共に、B-29 迎撃夜間戦闘機に改造されていた。斜銃前上方12.7mm 2挺。前下方8挺。私は前上方だけで結構だと。後下方2挺装備。彗星は前上方20mm 機関砲一門。スピードはアッタ水冷式(1400馬力)32型552km/h。金星空冷式(1560馬力)33型580km/h でゼロ戦52



陸上爆撃機・銀河

型より優速。私は偵察機^{スガ}・彩雲、希望だったので、若し小原先輩の彩雲偵察隊付となっておればと、昨今青空を眺め乍ら湯に浸って思いを巡らせたり。豊橋空霞ヶ浦派遣隊は特攻隊編成。白暮飛行。夜間飛行。黎明飛行。実弾(爆弾)装着して急降下爆撃訓練強行。

芙蓉の如き君ありて

身も心も清らなる若人の特攻精神に、日本の心を手向けんと、上陸日に、清々しく庭美しく暁の香り涼暮月に。色白く心優しき日本女性。土浦真鍋台なるかの人。終戦後しばらくしてみまかり、今は水戸の信願寺に眠り給う。土浦下高津の黒田家のお婆さんの御親切に対して書いた我々の寄せ書きが戦後遺言により記念館に飾られ、孫の赤十字飛行隊長黒田常夫氏夫妻が土浦の様子を事細やかに、又水戸の信願寺に代参され、清らなる心の交流の素早く、暖かき事、半世紀不変の真実に御座候。

昨今人を愛し、我也又人と思うサモエード犬プーちゃんと共に毎日散歩してゴミを拾い、日本を美しくする心を語る我。やもめ40年。

(昭和22年卒)



「芙蓉の人」が眠る信源寺にある“雄翔”の碑

教壇生活30年

稲田実次

広島修道大学に勤めて 私は現在広島修道大学商学部で「貿易論」の講義を担当している。早いもので今年で31年が過ぎた。旧浅野藩の藩校としての歴史をもつ本学は、戦後中高部を母体に「広島商科大学」として昭和35年に4年制大学として発足し、学部増設に伴って校名も「修道大学」に変更され、現在約6,000人の学生が学んでいる。

同じ大学で30年も在職していると、大学行政にも関与せざるを得なくなり、昨年は大学院商学研究科長を命ぜられ、(2氏に博士の学位記を授与することができた。)また、昨年9月には吉林大学(中国・長春市)日本研究所主催の国際学会に出席、同大学より客員教授としての招聘を受けた。しかし、多忙のなかで10月に入って胃腫瘍のため手術を行い、1カ月余り入院を余儀なくされたが、11月無事退院し、今は健康の有難さを嘯みしめているところである。

変わる学生気質 現代の学生は豊かな時代に育ち、幼い頃から有名校への進学を目指して塾に通い、偏差値教育によって知的能力は高くなったが、個性のある若者は少なくなり、規格品的な学生が多く、個人主義で利己的な行動が目につく。ボランティア活動よりもアルバイトを選択する学生が多いことも、こうした現れのような気がする。経済的には我々の時代とは異なり、クルマを持ち、海外へ卒業旅行に出かけるグループも少なくない。

このような学生たちの講義の出席率は50%以下で、学生は何に時間とカネをかけているのだろうか。クルマを買うためにバイトだけに時間をかけているとすれば、就職が内定していても、さらにもう1年ということになる。こうした一般学生に対して、特に中国からの留学生は僅かな奨学金と限られた時間内でのアルバイト収入で生計を立て、

勉学を続けている。一昨年9月吉林大学での講義を終え、帰途北京に立ち寄った。以前桂林から来ていた留学生が列車で4日間もかけて会いに来てくれ、市内の観光案内を始め、万里の長城にも同行してくれ歓待を受けた。改革・開放で拝金主義の中国だが、今なお儒教的思想は健在であり、教えられることの多い卒業生との出会いであった。

私の研究—貧しいアジア— 私はアジアに関心をもち研究を進めている。アジア研究の動機は、20年前に大学のフィリピン研究のメンバーとしてパナイ島に調査に行ったとき、農村の厳しい貧困の現実を知ったことが研究の始まりである。広大で多様性に富むアジアは、21世紀における世界の成長センターとして期待されている地域である。しかし、今なお経済が停滞し、先進国の経済的支援を必要としている貧しいアジアがある。私は貧困のアジアに研究の中心をおき、貧困をなくすために何が必要か、批判される日本のODA(政府開発援助)のあり方、また、市民の自発的な参加・支援によって現地住民の自立を助けるNGO活動についても研究を進めている。

健康のために趣味を活かす 老いても健康で平安な日々を送ることができればこんな幸なことはない。しかし、人間60の齢を過ぎると健康について関心を向けざるを得なくなる。私の場合食生活よりも、自分の好きな趣味(魚釣り)を活かすことによって、ストレスの解消に努めている。私は1人で海、川、池に出かけ四季折々の自然の中に溶け込んでいる。「釣れてよし。釣れなくてよし」と思っただけの釣行であるが、時には予想もしなかった大物がかかることもあり、釣りには一層の興味をそそられる。

(昭和30年卒)

30年目の同期会

10人の浦島太郎たち

昨年5月4日、大阪駅西口に、続々と懐かしい顔が集って来た。S39年卒の同期13名の内、残念乍ら都合のつかなかった3名を除いて。30年を経ても、顔を合わせれば、皆んな、「たった今下宿から出て来た」という雰囲気、気分は一気に昭和35年にタイムスリップ。

我らの永久幹事(?)斎藤君の綿密な計画に沿って1日目は田辺校地と格納庫の見学へとJR学研都市線で一路同志社前へ。

「ウワー！何やこれはまるで外国の大学みたい、俺達にはやっぱりあの狭い今出川がエエナー」などと勝手なことをほざきながら、遠い格納庫まで、体力の落ちた中年すぎのオッサン達には少々手に、いや足に余るキャンパスの広さでした。

格納庫の立派なことにまたまた仰天、翼を休めている機体に二度ビックリ。でも浦島太郎達には、顔が写るほど磨き上げられ、とまった蠅もツルリと滑り落ちるのではないかと思うほど丸味を帯び、限界まで空気抵抗を考えたシャープなシルエットのプラスチック新鋭機は、どうもツツとすましているようで、妙に馴染めないのです。その前をそそくさと通り過ぎて、肩身が狭そうに、片隅に片付けられている復元中のアローヘッドとイオラスとの再会を喜び、自分の背中の汗を吸いこんだキャンパスの操縦席を撫で、操縦桿の握り具合を確かめ、サラサラの羽布にいとおしそうに、そっと触れてみるのです。その時、浦島太郎達の目に、イッチニ！イッチニ！とゴム索を引きながら前に行く友の足が埋もれる玉水の砂が、朝から晩まで機体を押して走った、足に硬く長い長い八尾のランウエイが、はっきりと見えていたのです……。

その夜は、京都市内の閑静な聖護院にピストを移動し、さすが名幹事、安い予算でこれだけの山

海の料理をよく出せたと思う程のご馳走と美酒に酔う。杯を重ねる内に、「ヘーそれは知らなかった」と云う恋の鞘当てや、「風呂屋でケンカした相手が悪かった、ボクシング部だった」と云う話や、下宿の隣の若い人妻と云々……という書くに書けない話迄飛び出して京洛の夜は更けてゆきました。

一夜明けての予定は、各人の下宿めぐり。気の毒なのはMKタクシーの運転手さん、宿から呼ばれた時には、オジサン10人と聞けば、「今日は1日気楽な名所案内」と思ったはず。ところがこの連中、旧い町名を口走っては、やれ修学院前へ行けの、次は高野橋の近くだの、植物園前を南に入れだの、「アッそこの路地を右へ！」「アレ違うナー戻ってくれ」「確かここやったのにナー、こんな道無かったよ」などと云われても、「30年も経ちゃあ、いくら京都でも、道も変われば、一方通行にもなるツーの！」やっと思付けた、古びた民家の前で、「ココ、ココ！間違いないよ、夜中に酔っぱらってあの窓から小便したヨナー」とハシャイているこの連中は一体ナニ？と思ったに相違ない。下宿のオジサンに再会して喜ぶ者、跡形もなくなって寂しがる者の御一行は、この後、懐かしの今出川キャンパス内を散歩し、30年前と変わらぬ同志社は、優しく包みこんでくれ、10人の浦島太郎達はやっと思つたのでした。

そしてこれまた店内全く変わらない西門前のわびすけでゆっくりコーヒーを飲み、今回は、今だに「飛んでるバカ」の窪田君の世話で、モーターグライダーに乗ろうということを約して、10人の浦島達は、各人各様の玉手箱を持って、それぞれのお国へと帰りましたとサ。

(昭和39年卒)

復元する会に参加して

大久保 雅 史

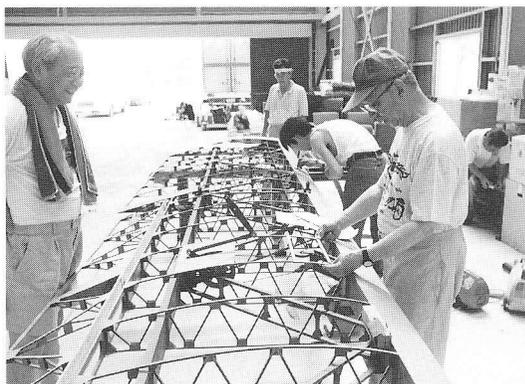
この歳になっても、臉を閉じて、心を澄ますと……の書き出しで始まったハト K-14 アローヘッド、H-23C イオラスの「復元する会」が発足し第1回会合が平成5年12月4日田辺の格納庫で開かれました。翔友区号でも紹介され、写真も載っていましたが、永田先輩と佐々木先輩は故人となられ改めて残念な気持ちで一杯です。御冥福をお祈りします。

私がこの「復元する会」の案内をいただいたのは昨年の OB 総会の頃でしたでしょうか、メンバー募集の呼びかけで参加し、4月頃から毎月第3土曜日に田辺の格納庫に集まり、老若男女でワイワイガヤガヤとやっておりましたが、最近では阪神大震災で被害に会われた方もいらっしゃいますし、メンバーがお決まりの方々に人数も不足ぎみです。新しいメンバーの参加をお願いする次第です。

さて、復元の状況ですが K-14 は、現在のところ左右主翼のリブ、整形ベニア関係の修復はほぼ終り、羽布貼りと塗装を行う段階でその後は金具取付後に張線張りとなるでしょう。羽布は政先輩に、ターンバックルは三浦先輩に、張線は西田先輩にお願いし、製作や寄付をしていただきありがとうございました。胴体前部は操縦席以外は合板も貼り終りニス塗装前の状態です。後部胴体と、水平安定板、垂直安定板は羽布を貼り塗装をすれば現状で使用可能だと思われませんが私個人の見感ですのでこの様にすんなり行くかどうかわかりません。しかし、1歩ずつ進んでいるのは事実です。一度復元されかけた事がある様で手の加わった部分が有り、金具類も新しい部品が、古い従来の部品にまざり判断に迷う事もあります。なにぶん大先輩方が翔べた時よりすでに40年を経過

しており、往時の姿をはっきり記憶されている方は1人もいらっしゃいませんので、あれこれ考えるのも楽しみの1つですが、来年10月の完成を日ざしピッチを上げたいと考えております。現在の常連さんガンバリましょう。新メンバーの参加をお願いします。

(昭和47年卒)



第8回翔友会ゴルフ会

平成6年10月15日(土)
於 彦根カントリークラブ

毎号のことながら、今回も絶好の WEATHER に恵まれて第8回ゴルフ会を彦根カントリークラブで行ないました。思えば第5回の全国的に被害をもたらしたあの19号台風の時さえ素晴らしい天気にも恵まれているのです。今後翔友会ゴルフ会に参加される方、雨具の用意は必要ありません！

今年はいつものメンバーに、大久保 OB(47年卒)にも参加いただき12名の競技となりました。第8回目とも言えば選手一同かなりの技量向上が期待されましたが、現実はきびしいもので失速、指定地着陸失敗ありの大混戦となりました。その中でさすが本場イギリスでの練習ラウンドが効いたか？政副会長が NET74 で見事優勝！前人未踏

の翔友杯V2を達成されました。(翔友杯の権威を保つためにもV3は阻止されなければなりません！)

2位には初参加の大久保 OB が入賞、3位には幹事ながら小生が入賞致しました。(ご苦労サン)

ゴルフ会は大先輩から新人 OB まで上下関係なし？大変楽しい会です。かつて後席に乗っていただいた先輩に対して厳しく恩返しできるのもこの時しかありません！今年も10月の第2土曜日位に開催する予定です。ぜひご一報下さい。関東OBの方もぜひご出席お待ちしております。

(昭和45年卒 南村記)



南 大 西 山 一 加 西
村 久 山 田 圓 藤 田
 保 山 (正) (寛)
向 橋 中 窪
井 本 本 政 田



1日のプレーの余韻を楽しみつつ……

東海支部便り

中 村 洋一朗

去る11月末、東海支部の恒例となりました、忘年会+ゴルフコンペ+木曽川滑空場への合宿訓練の激励訪問を行いました。

今までは、土曜日お昼頃に木曽川滑空場集合、現役学生の訓練の間に(厚かましく)ゲストフライトを楽しませていただき、夕方、日吉ハイランドクラブ(岐阜県)のロッジにて忘年会、翌日コンペというパターンが続いた為に、今回は場所と趣を変え、三重県で開催させていただきました。

前回に続き吹田より橋本先輩、又、京都より西山先輩の参加を得て、山田君のホームコースである松阪カントリーにてコンペ。終了後木曽川滑空場に近い羽島市の旅館「明日香」でコンペの成績発表と忘年会を行いました。仕事の途中、かけつけていただいた箕浦先輩も加わり、年に一度の思ひ出話に花が咲きました。

翌、日曜日はさっそく滑空場へ……。乗せてもらったら旋回位は自分でやってみよう、などと思いながら着いてみると横風が強く待機中とのこと、残念！ 風は昼になっても止まず、訓練は中止。合宿を指導されていた北尾教官とっておきの店「魚勝」で鴨鍋を囲んで2回目の忘年会？となった次第です。

遠路はるばる参加いただきました橋本、西山先輩、ありがとうございました。次回もぜひお集まり下さい。又、近辺にお住まいのOBの方の参加もお願い致します。

以上

(昭和49年卒)



中 山 向 西 橋 宮
村 田 井 山 本 地
(洋)(正)

阪神大震災義援金の報告とお礼

翔友会会長 小 野 哲

翔友会の皆様には、お元気でご活躍の事と存じます。

さて、震災直後、皆様をお願い申し上げました義援金は、3月4日に締め切りしましたところ、105名の方々から合計1,356,000円の温かいお志しを頂きました。誠に有り難うございました。

早速、6名の幹事が手分けをして、19名の被災会員を1軒1軒訪ね、直接お渡し致しました。全壊、半壊を含め何らかの被害を受けておられ、皆様のご芳志に対し、「くれぐれもよろしくお礼を申し上げます」というお言葉を頂いて来ております。

以上、ご報告申し上げると共に、重ねて厚く御礼を申し上げます。

記

義援金応募者数	105名
義援金総額	1,356,000円
被災者数	19名
配布お見舞い金	1,330,000円(70,000/1名)
配布交通費・のし袋代	26,000円

翔友会総会議事録

1. 日時：1995年2月18日(土)13:30—16:00
2. 場所：新島会館
3. 出席：政副会長、橋本、森(茂)、本田、吉川、渡辺、喜田、守本、石元、川上、窪田、南村、吉岡、加藤、西田、大久保、西山、速見、北林、中村、松岡、新庄、森川、森(聡)、三田村、学生部員
4. 議事：
 - ①開会 政副会長 佐々木前幹事長と震災で亡くなられた方々に対し黙祷を捧げる。
 - ②挨拶 橋本幹事 学生スポーツの本分を忘れず事故に十分注意して前進すること。
 - ③現役部員活動及び会計報告 田中、所司原、山本 (明細配布)
 - ④新会員紹介 新庄監督 今川隆文(NTT)、瀬川貴之(在学)、花井 仁(在学)、上本貴美子(日立電子サービス)、山本晋市(在学)、上田浩亮(あさひ銀行)、岡田崇生(西松建設)、大館美和 ()内就職先
 - ⑤新幹事紹介 政副会長 幹事長／南村、幹事／石元、大久保、北林を新任する。
 - ⑥翔友会会計報告 西山(別紙)
 - ⑦翔友会議題
 - イ. 翔友会活動報告 大阪…政、名古屋…橋本
 - ロ. スポーツユニオン報告 渡辺 航空部選出スポーツユニオン理事交代 常任理事に吉川、南村、顧問に窪田を新任。
同志社校友会改正会則支持並びに異校友会長辞任勧告署名運動について
 - ハ. 教育委員会報告 新庄 Ka-6Eの破損と修理(12ページ参照)、戦績報告(10ページ参照)、翔友会より贈呈したパラシュートへの御礼。
 - ニ. オーストラリア遠征報告 田中中将(航空部便り参照) 今後も継続して行けるよう監督、コーチと協議する。翔友会も援助について検討する。
 - ホ. 事業委員会報告 吉川、窪田、南村『復元する会』進展状況及び翔友会ゴルフ会について。
 - ヘ. 財務委員会報告 政 会費は1月21日現在143名の方々より送金あり、諸費用増加に付き是非ご協力を願います。航空部奨励基金(別紙)
 - ト. 『翔友』編集委員会報告 窪田 翔友X号の編集及び発刊予定について。
 - チ. 60周年記念事業について 速見、予定日時：平成8年11月、候補会場：京都のシティーホテル又は田辺厚生年金会館、事業として記念誌発行、祝賀会等 募金目標(300万円)準備委員長に政副会長を選任する。
 - リ. 義援金について 窪田(34ページ参照)
 - ヌ. その他 住所、勤務先変更の方は、必ずお知らせください。
5. 閉会：政副会長

翔友会会計報告

1994 1. 1～1994 12.31

収入の部		支出の部	
前期より繰越	1,450,785	通信費	533,427
会費 (146名)	1,740,000	現役援助費	300,000
広告 (27名)	280,000	翔友	476,890
総会会費 (47名)	470,000	OB総会費	463,164
利息	3,413	雑費	215,759
定期預金解約	593,320	スポーツユニオン	30,000
		慶弔費	40,600
		教育委員会	200,000
		翔友基金へ	1,154,579
合計	4,537,518		3,414,419
		次期繰越金	1,123,099
		定期預金積立	2,299,567
内訳			
現金	— 103,772		
普通預金	876,450		
現役貸付	350,421		

小野 哲
西山 靖郎

航空部奨励基金の現況 H7. 1. 22現在

50周年記念事業余剰金 869,579円

翔友会ゴルフ会寄附 窪田監督ご苦労様会寄附

西山靖郎、窪田昌三、南村清治、各氏

寄附を含めて

合計¥1,351,638円

となっています。

その内¥1,350,000をH7.1.12定期預金(1年)にしました。

同志社スポーツユニオン について

渡 辺 洋 一

会則の一部を抜き書きし、その目的、事業内容を確認します。本会は同志社スポーツの振興と発展の為物心両面の援助を図ると共に、体育会各部OB会の結束と相互の親睦を図り、母校の発展と充実に寄与することを目的(第1条)としています。この目的を達成する為、次のような事業を行います(第3条)。

- 1) 祝勝会(毎年原則として1月に優秀部・優秀選手・各部々長・監督・コーチ等を招き開催)
- 2) 親睦ゴルフコンペ(春秋 年2回開催)
- 3) フレッシュマン・リーダーズ・キャンプ等の援助と指導
- 4) 会員名簿の発行(4年毎更新)
- 5) その他

会員(第4条)は体育会各部OB会に所属する者で構成されています。

1994年度同志社スポーツユニオン行事

(1994年4月～1995年3月)

1. 第27回同志社スポーツユニオンゴルフ大会
5月7日(土)亀岡カントリークラブ
参加者 19部25チーム 94名
(翔友会から窪田・南村・大久保・西山4氏参加)
成績
団体の部 優勝 空手道部
準優勝 スキー部
第3位 バドミントン部
個人の部 優勝 片山広一氏(卓球部)
準優勝 南村清治氏(航空部)
第3位 豊原洋治氏(バドミントン部)
2. 第1回同志社スポーツユニオン総会
6月11日(土)15:30～16:40

同志社大学今出川校地至誠館32番教室

出席者 145名

議 題 1993年度決算報告、1994年度事業計画、全予算、役員改選、ボードセイリング部ユニオン加盟、統一名簿発行について等

3. リユニオン全同志社人ゴルフ大会
10月15日(土)亀岡カントリークラブ
4. 同志社スポーツユニオン連絡協議会
12月10日(土)18:00～
聖護院 「河道屋」
議 題 同志社スポーツユニオン総会について、監督会の運営方針と行事、校友会改革の現状と今後の対策等
5. 同志社スポーツユニオン祝勝会表彰者(部)選考委員会
12月13日(火)14:00～
磐上館 会議室
6. 第2回同志社スポーツユニオン総会
1月28日(土)16:30～17:30
京都パークホテル
議 題 各専門委員会の活動報告、祝勝会について、1995年度行事予定、1995年度予算案と分担金支払いの件、体育会本部役員紹介及び活動報告と行事予定、役員改選、校友会改革の現状と今後の進め方、スポーツユニオン統一名簿改訂の件等
*航空部 工藤貴志君 総務部長
7. 祝勝会及び表彰式
上記総会に引き続いて開催(18:00～20:00)
表彰者 OBの部 12部 31名
学生の部 団体 14部 141名
学生の部 個人 25部 64名